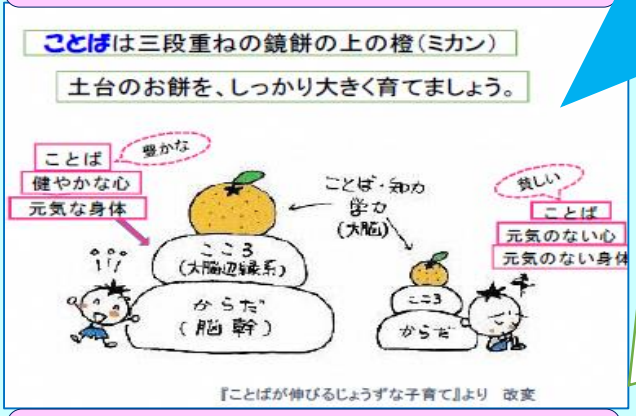
～円滑な幼保小連携・接続をめざして～

『子どものこころとことばの育ち　暮らしの中でできること』

西部教育局
お役立ち情報
令和4年12月号

第3回幼稚園教諭・保育教諭・保育士等の合同研修会を開催し、子どもの発達支援を考えるSTの会代表　中川信子先生に『子どものこころとことばの育ち　暮らしの中でできること』と題し御講演いただきました。先生のお言葉や資料とともに参加者の感想を紹介します。

①　わくわくする楽しい遊びのなかで伝えたい気持ちを育むこと



大きなみかん（ことば・学力）を乗せるために土台のお餅（からだ・こころ）をしっかり大きく育てましょう。

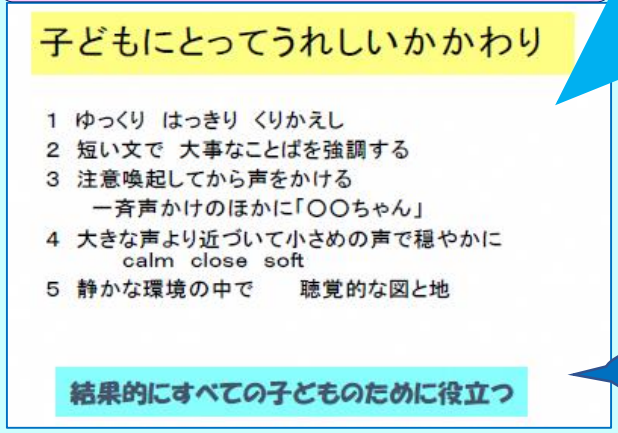
【感想】
ことばの発達を促すためには、読み聞かせをすること、たくさんことばかけをすることだと思い、今までやってきました。しかし、今回の研修で、**体を使って思い切り遊び、安心できる関係・場所を作ること**がまず大切であること、その**土台**があるからこそ、言葉・知力・学力が豊かになるということを学びました。

②　良い聞き手であること

「強制したり、誤りを指摘して訓練したりするのではなく自然な遊びや生活の中でことばを育んでいきましょう。」

【感想】
子どもの出す声や音をそのまま真似る「モニタリング」、
子どもの行動や気持ちを大人がかわりにことばにあらわす「パラレルトーク」、
子どものまちがいをさりげなく正しい発音にして返す「リフレティング」　等
日々保育士が何気なくやっていることの大切さがよくわかりました。

③　子どもにとってうれしいかかわりを意識してことばを届ける



「子どもにはどう聞こえているのでしょう。」

【感想】
子どもに、実際どう聞こえているのかを先生に実演していただき、**早口で話すとまったく聞き取れない**ことにびっくりしました。自分の日々の話し方を振り返るきっかけとなりました。また、遠くから何度も大きな声をして注意していたように思います。**近づいて小さな声で穏やかに伝える**ことを実践していきたいです。

小学校でも大切

子どものこころとことばを育むために、暮らしの中でできることをたくさん教えていただきました。皆さんも「①わくわくする楽しい遊びのなかで伝えたい気持ちを育むこと」「②良い聞き手であること」「③子どもにとってうれしいかかわりを意識してことばを届けること」から始めてみませんか？